

令和7年度第1回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

令和7年度弘前市立図書館協議会 会議録（第1回）			
日時	令和7年7月7日（月）午後3時00分～4時00分		
場所	弘前図書館2階 会議室	傍聴者	0人
出席者 （敬称略）	委員長 今井 正浩 副委員長 島内 智秋 委員 地主 尚子 委員 長尾 朗 委員 奈良岡 裕子 委員 藤島 歩 委員 佐藤 薫 委員 佐藤 義光		
欠席者	委員 宮本 ふみ 委員 三浦 愛菜		
事務局側 出席者	弘前図書館館長 小田桐 康眞 弘前図書館業務主任者 阿部 美子 生涯学習課長 中川 元伸 生涯学習課総括主査 坂崎 春子 中央公民館相馬館館長 三浦 幸宏 図書館・郷土文学館運営推進室長 高橋 貢		
会議の議題	(1) 令和6年度弘前市立図書館の利用状況等について（報告） (2) 令和7年度弘前市立図書館の事業計画等について		
会議の結果	「会議の議題」に基づき説明し、委員からの質問や意見を伺った。		
会議資料	・資料1 令和6年度 各図書館利用状況 ・資料2 購入図書数等の推移と蔵書数 ・資料3 令和6年度 各種事業の実施状況 ・資料4 小中学校向け電子図書館実証実験経過報告 ・資料5 事業計画及び管理業務実施計画		

令和7年度第1回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

会議内容	
議事（1）令和6年度弘前市立図書館の利用状況等について（報告）	
事務局	（資料1～資料4に基づき説明）
【資料2関連】	
委員	蔵書の総数が57万3,458冊というのは、最盛期のアレキサンドリア図書館の蔵書数に匹敵する、立派な蔵書数だと思う。
【資料3関連】	
委員	まるかじり本棚弘前事業で、おすすめコメントを寄せた本を提供してもらおうというのは、市民の方から提供してもらおうということか。また、本は貸してくれた人に返すのか。
事務局	図書館の閲覧室の蔵書とは別に、1階ロビーに本棚を用意しており、市民の方に本を持ってきていただき、面白そうだった別の方が持つて行くというものである。
委員	読み終わったら返して、また違う人がみたいの、ということか。では、本は寄付してもらおうということか。
事務局	そうです。
委員	4館合同スタンプラリー事業で、非常に人数が増えたという話で素晴らしいと思ったが、なにか増えるきっかけとなったものはあるか。
事務局	スタンプラリーで4館制覇した方への景品が豆本で、カバーの柄が何種類もあり、かわいいと人気があったことと、人によってはいろんな種類を集めたいと複数参加される方が多かったこと、SNSで毎日、カウントダウンカレンダーを流したり、4館制覇した方を紹介するなど、SNSをうまく使えたので広がっていったということがある。
委員	弘前市民ながら、各図書館がいろんなイベントしているのは今日初めて

令和7年度第1回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

委 員	知った。ブックスタート事業というのは、乳幼児から読書に親しめる環境をつくるために、0歳児の保護者に絵本を無料で寄付しているということか。
事 務 局	指定管理者が、購入した絵本をプレゼントしている。
委 員	子供があまり本を読まないのではないかという話がある。確かに毎年、新しい本を買っても学校の図書室を利用する子供が少ない。それで出たのが、今の親も読まない、という話で、このブックスタート事業を継続していけば、結果が出るのは先だとは思いますが、子供たちが本に親しみ、保護者も本に興味を持つという、いい方向に向かうのではないか。学校でもいろいろな取り組みをしているが、家では読まないようなので、こういう事業もとてもすてきだと思った。
委 員	園長をしていたときに、保護者に自分が読んでよかった絵本を紹介してもらい、その方のコメントつきで全員に紹介したら、保護者同士で、あの本読んだよ、といった繋がりができ、また紹介したいから本を読みに行く、というようなこともあった。自分がよいと思った絵本は子供に繋ぎたいという思いはどの保護者もあったように思うので、保護者同士が絵本を大事だと思うきっかけになる仕掛けもいいかもしれないと思った。
事 務 局	各館においておはなし会というのをやっているが、どうすれば参加者が増えるのか、ボランティアの代表の方などと話している。今までは、いかに子供を集めるかということを考えていたが、今は若い親世代をどうやって図書館に呼ぶかという視点で、今、あの手この手を出している。
委 員	どうやって集めるかが課題だと思う。最近、弘前にこんなにも家族がいる、と経験したのが、市民中央広場の移動動物園にできていた行列と、アップルロード沿いでキッチンカーやテントが出ていた企画。集める手立てとして、子供たちが喜ぶような金魚すくいなども人が集まっている。図書館であれば、横の東屋がある空間に子供が来て、その流れで図書館に誘導するという方法もあるのでないか。

【資料4 関連】	
委 員	電子図書館の実証実験に関して、学校別のログイン回数を見ると、小学校は比較的電子図書館を活用している一方で、中学校には課題があるのかなと思いながら拝見した。学校別の中学校で1校だけが非常に活用しているが、経緯などに関して聞き取りなどはしたのか。
事 務 局	直接聞くということができていない。
委 員	非常に特徴的だと思った。私なりに見ると、小学校向けのコンテンツが8割くらいで、中学生が読む電子書籍が非常に不足しているというのが当初から懸念されていたと思う。また、1人1台端末の使い方は、小学校が先行していて、今は過渡期で、中学校で朝から持たせている学校はそれほど多くない。今後目指すかたちの選択肢の1つとして大事なので、こういう傾向だということを発信できれば、活用は広がるのではと思った。
事 務 局	学年別につくったコンテンツを細かく見れば、もっといろいろ見られると思う。
委 員	その1校は、おそらくプロジェクトの趣旨を校長先生などがしっかり理解し、組織ぐるみで対応しているのではないかと思う。
委 員	使わせてみた実感からいうと、使い始めると見るというか。どういう内容があるのかというのを見ているので、中学生向きでなくても、ぜひ触れさせたいとは思った。
事 務 局	実際、小学校が使っているところが大体が伸びているので、そういうことだと思う。
委 員	去年、小学6年生で使っていた子たちが中学一年に上がっているわけで、使わない手はないと思う。
委 員	プロジェクトの趣旨はわかってはいるが、ログインしても違うものを見

令和7年度第1回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

委 員	ていて、使用を中止するということもある。
委 員	まだプロジェクトの実施途中だが、今回出た意見等も今後の運営に反映していただければと思う。
議事（2）令和7年度弘前市立図書館の事業計画等について	
事 務 局	（資料5に基づき説明）
委 員	忙しいので20代、30代の人を読み聞かせサークルに入ってこないが、読み聞かせは大事。地域に目を向けると、地域の役に立ちたいとか、学校の外で自分の力を発揮したいという学生が結構多いと感じている。この事業計画だと、大人が子供にしてあげることが中心だが、子供が読み聞かせをしてくれるという機会をつくるとか、子供が主体的になるような機会があったら面白いのではないかと思った。また、読むということが大事だが、それが遊びと繋がるということも子供の発達にとっては大事だと思うので、絵本を使った劇遊びや、物語を使って遊びに発展できる機会があると面白いと思う。去年、劇団で「三びきのこぶた」の紙芝居を朗読劇スタイルで読み聞かせした後に、図工の時間で作ったおうちを使い、児童と劇遊びをしたが、特に弘前図書館は視聴覚室のようなスペースがあるので、図書館のおすすめ本で遊べる機会があったら面白いと思う。